
自動車整備事業者のための
高校生向け
仕事体験学習（インターンシップ）
受入れマニュアル・事例集

令和7年6月

国土交通省

物流・自動車局自動車整備課

はじめに

高校生を対象とした仕事体験学習（インターンシップ）は、高校生が地域の整備工場において自動車整備士の仕事を体験することによって、自動車整備士の魅力を深く知り、将来の選択肢の一つとして自動車整備士を考えることにつながる可能性のある取組です。

本マニュアル・事例集は、高校生の仕事体験学習の受入れを検討している自動車整備事業者において、疑問点や不明点がある場合や仕事体験学習の内容を充実させたい場合などに参照いただけるよう、仕事体験学習の受入れに関するポイントや具体的な事例などをまとめたものです。

仕事体験学習に期待される効果・メリット

潜在的な自動車整備人材の発掘

自動車に興味を持つ高校生は、工業高校や自動車整備科の生徒に限りません。普通科に通う生徒の中にも自動車に興味がある生徒はいますし、さらに、これまできっかけがなかっただけで、将来の選択肢の一つとして自動車整備士を思い描いていなかった生徒がいる可能性も十分あります。

そのため、仕事体験学習として、広く高校生の受入れを行い、自動車整備士の魅力を直接伝えることで、将来の自動車整備士の確保につながることも期待されます。

「無関心」から「興味」へ

今日において、自動車整備士の魅力を知る高校生はそう多くありません。

そのため、まずは自動車整備士を知ってもらうために、仕事体験学習に参加してもらうことも有益です。その結果、これまで全く意識していなかった自動車整備士について、「もっと知りたい」、「もっと体験したい」、「自分もなりたい」といった思いを抱き、自動車整備士を将来の選択肢の一つとして検討する生徒が出てくることも期待されます。

目 次

1. 一般的な仕事体験学習（インターンシップ）の流れ	・・・ P 2
2. 一般的な仕事体験学習（インターンシップ）の流れの詳細とポイント	・・・ P 3
(1) 事前準備	・・・ P 3
(2) 募集活動	・・・ P 8
(3) 申込みの受付と受入先の決定	・・・ P 10
(4) 実施日までの準備	・・・ P 12
(5) 実施当日の対応	・・・ P 12
3. よくある質問集	・・・ P 13
4. 事例集	・・・ P 16
5. 参考資料集	・・・ P 25

1. 一般的な仕事体験学習（インターンシップ）の流れ

◆実施 4 か月前 (1)事前準備

- ✓ 実施日の決定
- ✓ 受入体制の構築
- ✓ 申込方法の決定

…P 3～5



◆実施 3.5 か月前 (1)事前準備

- ✓ 案内チラシの作成
- ✓ 生徒が加入する保険の事前手続

…P 6～7



◆実施 3 か月前 (1)事前準備

- ✓ 訪問・案内チラシの送付を行う高校の決定

…P 7



◆実施 2.5 か月前 (2)募集活動

- ✓ 案内チラシの送付
- ✓ 高校への訪問

…P 8～9



◆募集開始から随時 (3)申込みの受付と 受入先の決定

- ✓ 申込みの受付
- ✓ 申込内容の確認
- ✓ 実施内容の決定
- ✓ 参加生徒と受入事業者のマッチング（団体や企業が取りまとめを行う場合）
- ✓ 参加生徒への連絡

…P10～12



◆実施 1 か月前 (4)実施日までの準備

- ✓ 申込みの受付終了

…P12



◆実施 2 週間前 (4)実施日までの準備

- ✓ 当日使用する物の確認・準備
→ 工具、ツナギ、安全靴などの確認・準備

…P12



◆実施日 (5)実施日当日の対応

- ✓ 仕事体験の実施

…P12

2. 一般的な仕事体験学習（インターンシップ）の流れの詳細とポイント

（1）事前準備

ア 実施日の決定

実施 4 か月前

実施日は「受入事業者が受け入れやすい日」であることはもちろん、加えて「高校生が参加しやすい日」であることが必須です。

「高校生が参加しやすい日」としては、例えば、土日、入試日などの授業のない平日、長期休み期間などが挙げられます。反対に「高校生が参加しにくい日」としては、試験日前や学校行事日などが挙げられます。

学校行事などの予定は、各高校のウェブサイトに掲載されている可能性がありますので、事前によく参照いただくのが望ましいと思います。

Point

▽高校生が参加しやすい日



- (ア) 土日
- (イ) 入試日などの授業のない平日
- (ウ) 長期休み期間（夏休み、冬休み、春休み等） など

▽高校生が参加しにくい日



- (ア) 試験日前（中間試験日や期末試験日の前 ※いわゆる「試験時間割」の期間）
- (イ) 学校行事日（体育祭、文化祭等） など

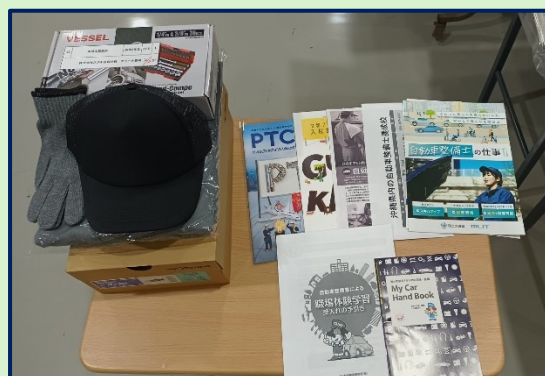
コラム

<参加生徒への記念品の提供について>

生徒が仕事体験学習（インターンシップ）に参加する際には、安全性を確保するために、「ツナギ」、「安全靴」、「帽子」などを着用してもらうことが必須となります。ツナギ等は参加生徒に貸与することも考えられますが、参加生徒に長く自動車整備事業に携わってもらうことや仕事体験学習への参加促進を目的として、参加生徒に記念品として提供することも考えられます。なお、参加生徒に記念品を提供する場合には実施 4 か月前頃から準備を始めるのが望ましいと思われます。



この点、仕事体験学習の実施にあたって、支援を受けられる可能性もありますので、実施前に最寄りの運輸支局や自動車整備振興会等にお問い合わせください。



仕事体験学習（インターンシップ）の受入れは、通常業務に加えて行うものです。そのため、漠然と受入れを行った場合、現場や管理職の業務負担が過度に高くなり、円滑に生徒を受け入れることができなくなってしまうリスクがあります。

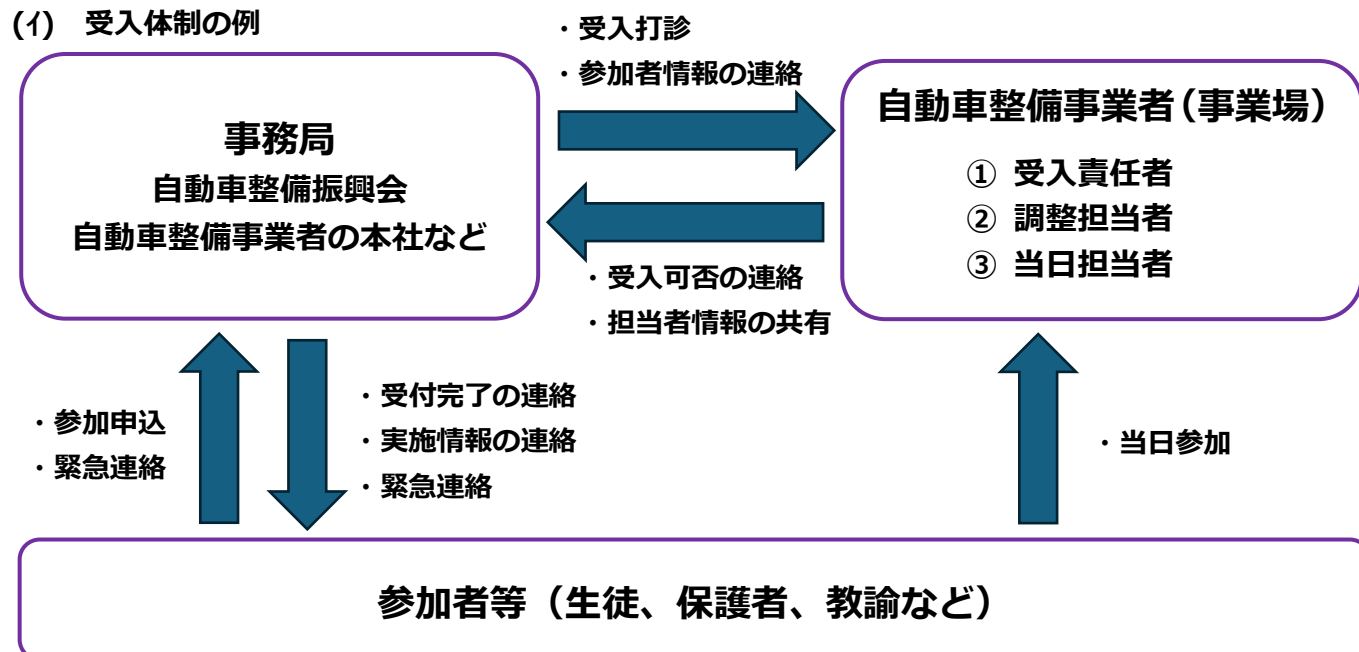
そのため、仕事体験学習の受入れにあたっては、事前に受入体制を構築して業務分担を明確にし、効率的に生徒を受け入れられるようにしておくことが望ましいです。

以下で受入事業者等の役割（業務分担）と受入体制の一例を示しますが、受入事業者の規模や参加生徒の人数などにより適切な受入体制は異なるため、具体的な事情を踏まえ、無理のない受入体制を構築することが肝要です。

(7) 受入事業者等の役割（業務分担）の例

事務局	参加生徒と自動車整備事業者をつなぐ窓口業務を担当
受入責任者	事務局から参加希望生徒の連絡を受けた際に、その受入可否の決定等を担当
調整担当者	仕事体験学習実施日までの自動車整備事業者と事務局との打合せの調整等を担当
当日担当者	仕事体験学習実施日当日の参加生徒の対応等を担当 ※全体説明、整備体験、施設案内など実施内容ごとに担当者を分けることでも差し支えない

(1) 受入体制の例



ウ 申込方法の決定

申込方法はなるべく生徒の手間がかからず、確実な方法とすることが肝要です。また、生徒は申込みを行うにあたって、教諭や保護者に相談することが想定されますので、教諭や保護者が仕事体験学習の内容や申込方法などを適宜参照できるようにしておくことも推奨されます。

(ア) 申込方法は様々なものが考えられますので、下記の事例を参照いただき、適当なものを検討ください。

A ウェブサイトからの申込み

- ① 仕事体験学習用のウェブサイトを開設する。
- ② 案内チラシ等に当該ウェブサイトへアクセスできる二次元コードを掲載する。
- ③ 生徒に二次元コードからウェブサイトへアクセスして申込フォームに必要事項を入力してもらう。
- ④ 申込時に入力してもらったメールアドレス宛てに受付完了の自動返信メールを送付する。

B SNSからの申込み

- ① 仕事体験学習用のSNSアカウントを登録（開設）する。
- ② 案内チラシ等に当該アカウントへアクセスすることのできる二次元コードを掲載する。
- ③ 生徒に二次元コードから当該アカウントへアクセスしてもらう。
- ④ 生徒に、友達への追加などのSNSの機能を利用して仕事体験学習の申込みをしてもらい申込完了後、当該SNS上で受付完了の自動返信メッセージを送付する。

C FAXでの申込み

- ① 案内チラシの裏面等にFAX送信用の申込用紙を掲載する。
- ② 当該申込用紙に必要事項を記入してFAXで送信してもらい、電話で受付完了の連絡を行う。

(イ) 申込み方法A/Bのイメージ

①案内チラシの二次元コードを読み



②ウェブサイト等にアクセス・申込み



③申込完了後

受付完了の自動
メール等の送信



より多くの生徒に、仕事体験学習（インターンシップ）に参加してもらうためには、事前の案内・告知を十分に行う必要があります。いくら仕事体験学習の内容自体が素晴らしいものであったとしても、生徒に仕事体験学習の存在を知ってもらうことができず、参加者が集まらないと意味がありません。

そこで、仕事体験学習に参加してほしい生徒に対して、仕事体験学習の実施時期、実施場所、内容、申込方法等を分かりやすく伝えることができるような案内チラシを作成・配布することが望ましいです。

また、この案内チラシは、生徒だけでなく、教諭や保護者の目に触れる可能性もあるため、教諭や保護者が見たときに「ぜひ興味がありそうな生徒（子供）に紹介したい」と思ってもらえるような内容とすることも意識いただくのがよいと思います。

Point



文字は少なく、仕事体験学習の魅力が伝わる内容とすることが肝要です。
ただし、必要な情報はすべて掲載するよう留意ください。
※ここにいう「必要な情報」とは、申込方法、申込期限、実施日程などをいいます。

★案内チラシのイメージ

自動車整備の仕事体験しよう！
仕事体験学習 申込のご案内
高校1・2年生

参加者特典（先着50名予定）

- 特典① 工具セット**
※VESSEL製 ウツティ ソケット レンチセット（予定）
- 特典② 作業ツナギ**
※上記はイメージです
- 特典③ セーフティシューズ**
※上記はイメージです

その他 参加者はインターンシップ総合保険に加入します

実施内容

- 希望の自動車ディーラーや近隣の自動車整備工場に行き、自動車整備の仕事体験を行います
- 仕事体験を通して働く意義の発見や就業意欲の向上につなげます

実施日時 20××年 下記各日の10:00～16:00（予定）

※複数日程での参加も歓迎
※参加人数により多少の実施内容は変更される可能性があります
※上記日程の中から好きな日程を選択、参加できます
※実施日の3週間前締め切り

申込みの流れ

- ① チラシ内記載の二次元コードから申込ページへ移動します
- ② 申込ページ内の必要事項を全てに入力ください
- ③ 開催前にご案内をメール送信しますのでその内容をご確認いただき、当日のご準備をお願いします
- ④ 当日、実施場所にお越しください

ここに二次元コードを入れる

※申込後、リマインドメールが入ります。 ※申込後、リマインドメールが入らない場合、エントリーまで待たない可能性がありますので、再度ご確認ください

文字を少なくし、特徴的な画像を挿入することで何を伝えたいチラシかを明確にする。

何の案内であるかを一番大きく打ち出す。

実施日程をひと目で分かりやすく記載する。

他の必要事項は多少文字が小さくても差し支えなく、目を引く主題で興味を引けば、細かい内容も読み込んでいただける可能性が高まると考えられます。

申込みの流れを簡潔に記載する。

オ 生徒が加入する保険の事前手続

実施 3. 5 か月前

仕事体験学習（インターンシップ）の受入れを行う場合、生徒が移動中や仕事体験中に事故に遭ってけがを負うなどのリスクが否定できません。

そのため、可能な限り、案内チラシの作成と同時期に、受入生徒を対象とした保険に加入しておくことが望ましいです。

保険の例

保険加入期間と人数のみをもって加入できる「インターンシップ保険」には次のような保険があります。

- ・ 傷害保険（保険料の相場…一人 210 円～1,000 円程度）
⇒自宅等と整備工場の往復時や仕事体験時に発生した事故で負ったけがの治療費などをカバーする保険
- ・ 賠償責任保険（保険料の相場…一人 1,000 円程度）
⇒参加生徒が仕事体験時に受入事業者の設備機器を損傷した場合の費用などをカバーする保険

Point



事前に保険の加入手続を済ませるとともに、案内チラシにおいて、保険に加入している旨言及しておくことが望ましいです。



保険に加入していない場合、教諭や保護者が生徒の仕事体験学習への参加に同意しない可能性が非常に高いです。

カ 訪問・案内チラシの送付を行う高校の決定

実施 3 か月前

訪問・案内チラシの送付を行う高校は、例えば、次のようにして決定していきます。

- (ア) 第一に、地域の高校一覧を作成します※¹。
- (イ) 高校一覧に、所在地、学科、生徒数、就職希望者数などの必要な情報を整理します※¹。

※ 1 参考資料：高卒就職 WEB 提供サービス＞全国高等学校便覧（下記 URL 及び右記コード参照）
https://koukou.gakusei.hellwork.mhlw.go.jp/cont/catalog_college.html



- (ウ) 適宜、地域の自動車整備専門学校に対して協力を依頼します※²。

※ 2 地域の自動車整備専門学校（特にその広報部門）は、生徒募集のために定期的に高校に訪問していることから高校に関する情報を多く有しています。そのため、可能であれば、適宜、自動車整備専門学校に対して、訪問や案内チラシの送付への協力（例えば、アポイント先の紹介や注意点の共有など）を依頼するのが望ましいです。

- (エ) 訪問を希望する高校に電話し、進路指導担当教諭のアポイントを取ります。

- (オ) 案内チラシの送付先の確認及び送付状の作成を行います（訪問のアポイントが取れなかったとしてもチラシの送付は許容していただけるケースもあるため、(エ)で訪問を断られた場合であっても、案内チラシの送付を許容いただけないか確認することが望ましいです。）※³。

※ 3 案内チラシは、高校の進路指導担当教諭宛てに、仕事体験学習の趣旨を掲載した送付状（送付状のイメージは次ページ参照）を同封して送付することが望ましいです。

- (カ) 訪問・案内チラシの送付を行う高校が決まったら、(ア)の高校一覧を基に適宜まとめておきます。

ア 案内チラシの送付

実施 2. 5 か月前

- (ア) 前ページで整理した高校に対して一斉に送付することが望ましいです。
- (イ) 宛名は高校の進路指導担当教諭宛てとすることが望ましいです。
- (ウ) 案内チラシは、1校当たり5～10枚程度封入することが望ましいです。
- (エ) 必ず「送付状」を同封することが望ましいです。

⇒送付状を作成する際には、下記のイメージをご参照ください。

※送付状のイメージ

〇〇高等学校 進路指導部 ご担当先生	宛名には 進路指導担当教諭名を記載
○年○月○日	
会社名／団体名〇〇〇〇〇〇〇〇 住所〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 TEL〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	差出人として 主催者又は事務局の名称を記載
自動車整備士の仕事体験学習 (インターンシップ)のご案内	
拝啓　平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。 この度、〇〇〇において、仕事体験学習（インターンシップ）を実施することとなりまして、その案内チラシをお送りいたします。 本仕事体験学習が貴校の進路指導方針に沿うものでしたら、ぜひ生徒の皆様にご紹介いただき、ご興味のある方々に参加いただけますと幸いです。 ご多忙のところ大変恐れ入りますが、何卒よろしくお願い申し上げます。 敬具 記 ・自動車整備士の仕事体験学習のご案内 ○部	ひと目で何の案内か 分かるように記載
備考	仕事体験学習への参加希望者が いれば案内してほしい旨を記載
	封入物のタイトルと部数を記載

Point



高校には1日に多くの郵便物が届くため、発送元を分かりやすくすることが肝要です。
例えば、社名（自動車整備振興会名）が印字された封筒を使用することなどが考えられます。



また、チラシを見やすくするために透明な封筒を使用することも考えられます。
例えば、表から送付状、裏からチラシの表が見えるように封入することなどが想定されます。

案内チラシの送付開始と同時に、高校への訪問を開始することが望ましいです。

高校においては、進路指導担当教諭を中心に、年間の進路指導計画が決定されています。具体的には、進路指導担当教諭が、例年実施している指導内容や外部から提案を受けた新しい指導内容などを基に計画案を作成し、その後、学年会議における協議を経て、正式に年間の進路指導計画が決定されるという流れが一般的です。

そのため、新しい指導内容の提案が魅力的なものであれば、年間の進路指導計画に採用される可能性がありますので、高校に訪問し、仕事体験学習の魅力を紹介し、年間の進路指導計画に組み込んでもらったり、生徒に対して参加を促してもらったりすることを依頼することが肝要です。

高校への訪問時に仕事体験学習の魅力等を分かりやすく説明し、進路指導担当教諭の理解を得ることは仕事体験学習を成功させるために重要な事前準備の一つです。そのため、訪問前に、仕事体験学習のアピールポイントをよく整理し、教諭から質問された場合の回答もしっかりと準備しておくことが重要です。

Point



7 ページを参考に訪問希望先として整理した高校に対し、順次、電話でアポイントを取っていきます。

★アポイント先 ……進路指導担当教諭



仕事体験学習（インターンシップ）を実施している学年などは学校によって異なります。そのため、一度高校を訪問して、仕事体験学習のPRを行うとともに、必要な情報を共有してもらい、その後、共有された情報を基に仕事体験学習のプログラムを適宜整理して、改めて高校を訪問し、説明することも考えられます。

★訪問時に伝えること ……仕事体験学習（インターンシップ）の概要、告知への協力依頼等



教諭から生徒に対して、仕事体験学習（インターンシップ）の案内・告知をしていただけるよう、仕事体験学習のアピールポイント等を簡潔に分かりやすく説明するとともに、教諭からの質問には丁寧に回答することが肝要です。

★持参するチラシの数 ……1 学年の人数分の案内チラシを持参



訪問時に賛同を得られれば、その後、すぐに案内チラシを生徒に配布していただける場合もありますので、効率的に進められるよう十分な枚数の案内チラシを持参することが望ましいです。



(3) 申込みの受付と受入先の決定

ア 申込みの受付

募集開始から随時

案内チラシの送付や高校への訪問を開始後、随時、仕事体験学習（インターンシップ）への参加を希望する生徒からの申込みが行われます。申込みが届いたら、1件、1件について、内容をしっかりと確認し、申込みをした生徒に対して受付を完了した旨連絡します。もし、申込内容に不備がある場合には、受付完了の連絡時に確認しておくことが望ましいですが、生徒への連絡時間帯、方法、内容等については注意が必要です。

★受付完了の連絡に関する注意点

【事前告知】案内チラシ等に、申込み後、受付完了の連絡を行う旨記載しておくこと

【連絡方法】受付完了の連絡を行う際は、メールなど記録に残るもので行うこと

Point



土日や平日の夜など授業や部活がない時間帯でないと、生徒に電話はつながりません。そのため、もし電話する場合には、曜日や時間帯に留意することが肝要です。

イ 申込内容の確認

募集開始から随時

申込みがあった際は、申込内容をよく確認して、可能な限り生徒の要望に合わせた仕事体験ができるよう工夫することが望ましいです。

【考慮することが望ましい要望の例】

- ① 実施日 …生徒の希望する日に実施できるよう調整することが必須です。
- ② 体験場所 …基本的には生徒の自宅や高校の近くが望ましいです。
- ③ 仕事体験の内容 …例えば、特定の車種の点検整備を見学したい、特定の作業を体験してみたい、色々な車を見てみたいといった要望などが想定されます。また、生徒だけではなく、教諭から要望が出る場合もあります。

Point



生徒の要望を踏まえて、より楽しい体験となるよう工夫することが肝要です。

ウ 実施内容の決定

生徒の要望を踏まえて仕事体験学習の実施内容を決定したら、その概要をまとめておくことが推奨されます。例えば、以下のような実施確認書といった文書（電子ファイル）に、実施日、実施事業場名、集合時間などをまとめ、事前に生徒に送付しておくことが望ましいです（26 ページに実施確認書のサンプルを掲載していますので適宜活用ください。）。

また、仕事体験学習の実施概要は、受入責任者、調整担当者及び当日担当者が把握しなければならないことはもちろん、これらの責任者や担当者以外の従業員にも周知しておくことが望ましいです。

★実施確認書のイメージ

仕事体験学習（インターンシップ） 実施確認書			
実施日		参加人数	
実施場所 店名			
実施場所 住所			
集合場所	集合時刻		
集合時間		実施時間	～
担当名			
当日の持ち物			
その他の連絡事項			
会社名／団体名			
担当者名			
メールアドレス			
TEL①：会社／団体の連絡先	TEL②：当日の緊急連絡先		

【参加生徒にあらかじめ伝える必要のある情報の例】

- ① 実施日……………必須情報であり目立つように記載する。
- ② 実施事業場名……………正式名称を記載する。
- ③ 実施事業場の住所……………必要に応じて、事業場までの経路（地図）も入れて分かりやすくする。
- ④ 集合時間・場所……………分かりやすく記載する。
- ⑤ 実施時間……………開始時間と終了時間を記載する。
- ⑥ 電話番号……………当日の緊急連絡先としても使用することのできる事業場の電話番号を記載する。

エ 参加生徒と受入事業者のマッチング（団体や企業が取りまとめを行う場合）

団体や企業が仕事体験学習（インターンシップ）の取りまとめ（事務局として募集活動など）を行う場合、まずは参加生徒の要望をよく確認し、分かりやすく整理することが重要です。その後、整理した情報を基に、参加生徒の要望に応じてただけそうな自動車整備事業者をリストアップし、当該事業者に対して、分かりやすく参加生徒の要望を伝え、真摯に当該生徒の受入れをお願いすることが肝要です。このように、取りまとめを行う団体や企業は、参加生徒及び受入事業者の双方に十分配慮してマッチングを行う必要があります。

なお、取りまとめを行う団体や企業が参加生徒と受入事業者のマッチングを行った際には、受入事業者に対して、実施要領書といった文書（電子ファイル）を送付し、参加生徒の情報や当日のお願い事項などを伝えておくと、その後、受入事業者において、円滑に準備を進めることが可能になるものと考えられます（27 ページに実施要領書のサンプルを掲載していますので適宜活用ください。）。

＜団体や企業が参加生徒と受入事業者のマッチングを行う場合の留意点の例＞

- ・ 参加希望者が複数人いる場合、受入事業者（特にディーラー）に偏りが出ないようにマッチングすること
- ・ 参加生徒の要望や特長をよく考慮して、受入事業者とのマッチングを行うこと
- ・ 現場（整備工場）ではなく、本社の人事部門などと連絡する必要がある場合、あらかじめ現場と本社の役割分担や連絡フローなどを確認しておくこと

など

オ 参加生徒への連絡

(ア) 参加生徒（と受入事業者）が決まったら、速やかに実施確認書を送付すること

受入生徒が決まった場合、速やかに実施確認書を作成し、生徒に送付することが望ましいです。

なお、実施確認書の送付時に、生徒から、受入事業者への行き方の確認や希望日の変更などの要望があれば可能な限り対応することが望ましいです。

(イ) 実施日の1週間前頃に最終確認（リマインド）を行うこと

申込日と実施日の間隔が空くと、当日になってから仕事体験学習の実施日であることに気づき、欠席・遅参となる可能性もあります。

そのため、実施日の1週間前頃をめぐり、参加生徒に対して、電話やメール、その他SNS等で、仕事体験学習の実施日、場所、内容などの最終確認（リマインド）を行うことが望ましいです。

Check 参加生徒本人と連絡が取れない場合、教諭を経由して連絡を取ることも考えられます。

Point



参加生徒への連絡手段としては、携帯電話番号を利用したショートメールも有効です。

(4) 実施日までの準備

ア 申込みの受付終了

実施1か月前

仕事体験学習の受入れの準備には想像以上に時間を要します。そのため、実施日の1か月前頃を目途に申込みの受付を終了し、その後は準備に専念していただくことが望ましいです。

イ 当日使用する物の確認・準備

実施2週間前

実施日の2週間前頃までには、可能な限り、当日使用する物（工具、ツナギ、安全靴など）の準備をしておくことが望ましいです。準備不足により不十分な体験内容となることのないよう、早め早めの準備をしておくことが推奨されます。

(5) 実施日当日の対応

基本的には、事前に決定したスケジュール・内容のとおり仕事体験学習を実施するのみですが、参加生徒から遅刻や欠席の連絡が入る可能性もあります。そのため、適宜、緊急の連絡に対応できるようにしておくことが肝要です。

3. よくある Q A 質問集

(1) 実施にあたっての詳細

Q

実施日数はどの程度が適切か。

A

高校生のインターンシップは1～5日間で実施されることが一般的です。

Q

1回の仕事体験学習には何名の生徒に参加してもらうのがよいか。

A

友人と共に参加することが多く、2～3名の参加が一般的です。

Q

実施時間はどのくらいが適切か。

A

10時～16時（休憩1時間）が一般的です。

Q

昼食は受入事業者で用意した方がよいか。

A

アレルギーなどの問題があるため、基本的には生徒に用意してもらうことが望ましいです。もし、受入事業者が用意する場合には、必ず事前にアレルギーの有無を確認することが肝要です。

Q

生徒の服装で注意すべき点はあるか。

A

整備体験を実施する場合、オイルなどの汚れが衣服に付着する可能性があります。そのため、生徒用のツナギ、安全靴、帽子等を用意することが望ましいです。

Q

生徒にはどのようにして整備工場まで来てもらうのがよいか。

A

基本的には公共交通機関、自転車又は徒歩で来てもらうのが望ましいです。また、保護者が生徒を送迎することもあり、この場合、一時的に自動車を停める場所が必要となる可能性もあるため、事前に交通手段を確認するのが望ましいです。

(2) 仕事体験学習の受入れによるメリット

Q

仕事体験学習を受け入れた場合、採用にメリットはありますか。

A

一般的に高校生は業界研究を行う期間が短い傾向にあります。そのため、実際の仕事を体験することでミスマッチの少ない採用となることが期待されます。

Q

仕事体験学習の受入れは、事業者のメリットとなるか。

A

生徒がよい体験をした場合、口コミや SNS でその旨発信され、企業の認知度やブランド価値が向上することも期待されます。

(3) 仕事体験学習の受入れにより発生するコストやリスク

Q

インターンシップで給与は支払うべきか。

A

高校生以下の場合は無給での実施が主流です。
なお、大学生以上でも短期インターン（1 日～1 週間程度）は無給が一般的です。

Q

緊急時の対応はどのようにすればよいか。

A

事前に緊急連絡先として保護者の連絡先を確認し、何かあった場合、まずは保護者に連絡することが肝要です。
加えて、高校の連絡先も確認しておくことが望ましいです。

Q

セクシャルハラスメントについてどのような注意が必要ですか？

A

作業着に着替える必要がある場合、更衣室の準備等に配慮ください。
また、仕事体験中は、ボディタッチや性差に関する事項には触れないよう留意することなども必要です。

Q

パワーハラスメントについてどのような注意が必要ですか？

A

参加生徒と 2 人きりにならない状況を常に保つことが望ましいです。
また、声の大きさや言葉遣いなどにも留意することが必要です。

3. よくある Q A 質問集

(4) 仕事体験学習の内容

Q

仕事体験学習の内容はどのようなものがよいか。

A

例えば、次のような内容が考えられます。

- ・ 一般的な点検作業体験やスキャンツールを用いた故障診断の体験
- ・ 座学（業界の基礎知識、国家資格取得のフローの説明など）
- ・ 整備士との座談会、施設見学（持込車検への同行など）

※本マニュアル末尾に具体的な事例を掲載していますので参照ください。

Q

仕事体験学習の受入れは、従業員（自動車整備士）のメリットとなるか。

A

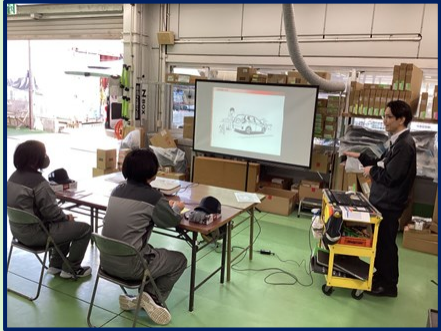
外部（生徒）の目が入ることで、従業員（自動車整備士）の間に、普段は感じることのなかった緊張感が生まれるなどして、個々のスキルや生産性の向上につながることで、従業員の働きがいの一つとなることなどが期待されます。

4. 事例集

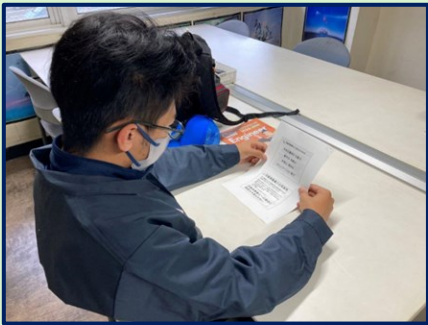
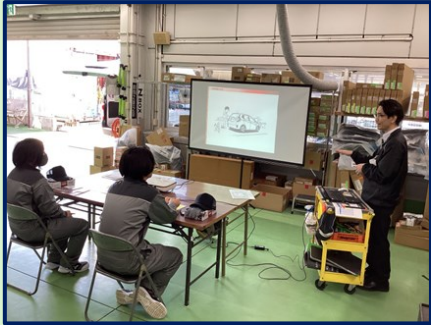
【事例 1/座学】自動車整備士を取り巻く現状などの説明

実施のねらい	自動車整備士の現状や今後の展望を伝え、自動車整備士を志す気持ちを後押しする。
実施内容	・自動車整備士を取り巻く現状（自動車保有台数、平均車齢、平均使用年数、整備工場数、自動車整備事業者数、整備士数など）や今後の展望をデータやグラフを用いて説明した。 ✓ 特に整備工場は全国にあり、希望する場所で働けることなどのメリットを説明した。 ・先進技術を搭載した次世代自動車の現状や今後の展望について、海外と日本を比較して説明した。 
実施時の工夫点	・次世代自動車の開発状況等については、最新のニュースを踏まえた説明とした。 ✓ 常に最新の情報を含めて、分かりやすく説明することを意識した。

【事例 2/座学】自動車の構造に関する説明

実施のねらい	実習の前に、自動車の構造・仕組みを理解してもらうことで、参加生徒の興味関心を喚起し、実際に自動車に触れる喜びを深いものにする。
実施内容	・パワーポイントや模型を使用して、自動車（四輪車及び二輪車）の構造を説明した。 ✓ 具体的には、自動車の構造は、大きく分けて、「シャシー」、「エンジン」、「ボデー」、「トランスミッション」、「サスペンション」、「ブレーキシステム」であることを説明した上で、それぞれの機能を説明した。 
実施時の工夫点	・参加生徒に分かりやすい説明となるように心掛けた。 ✓ 例えば、「トランスミッションとは、エンジンが回転して生まれた力を車輪に伝えて、車がスムーズに走るために調整する役割を持つ装置をいう。」というように、可能な限り易しい言葉を用いて説明した。

【事例 3/座学】 自動車整備士のキャリアパスに関する説明

実施のねらい	自動車整備士資格の取得からその後のキャリアパスまでを説明することにより、自動車整備士には無限の可能性があることを理解してもらう。
実施内容	・ 自動車整備士資格の種類や取得方法、資格取得後のキャリアパスなどについて、分かりやすくまとめた資料を基に説明した。 ・ 加えて、現役の自動車整備士の実体験を基に、自動車整備士のやりがいも説明した。 ✓ 例えば、依頼者から直接「ありがとう」といった感謝の言葉をもらうことや、作業の結果、故障箇所が正常な状態となったことがすぐに目に見えて自らの仕事の成果を実感しやすいことややりがいであることなどを説明した。  
実施時の工夫点	・ 参加生徒の現状（在籍している高校など）からどのような進路を選ぶと、自動車整備士資格を取得でき、その後どのようなキャリアを歩むことができるのかを分かりやすくチャート表にまとめるなどして説明した。

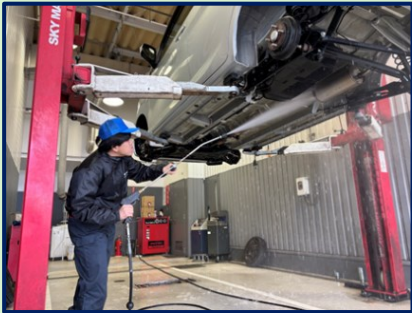
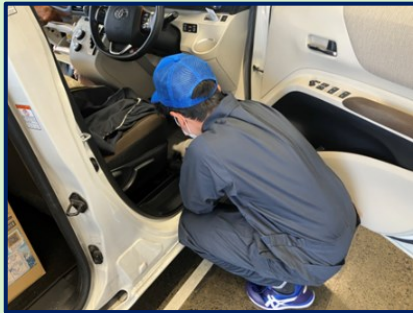
【事例 4/座学】 各種奨学金制度の紹介

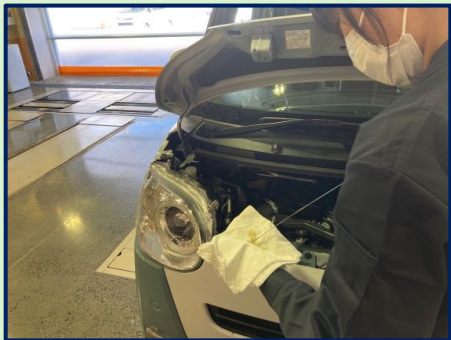
実施のねらい	経済的理由で自動車整備学校への進学に不安を抱えている参加生徒に対して、各種奨学金制度を説明することで、その不安を解消できる可能性があることを知ってもらう。
実施内容	・ 次のような奨学金制度等について、分かりやすくまとめた資料を用いて説明した。 ✓ 日本政策金融公庫の教育ローン ✓ 日本学生支援機構の給付型・貸与型奨学金  
実施時の工夫点	・ 各種奨学金の最新情報を含めて説明した。（例えば、次の高等教育の修学支援新制度の内容） ＜例：高等教育の修学支援新制度に関する説明内容＞ ✓ 経済的条件を満たしていれば誰でも受給可能で、成績ではなく進学意欲が基準になること ✓ 自動車整備専門学校の約 9 割が対象となっていること

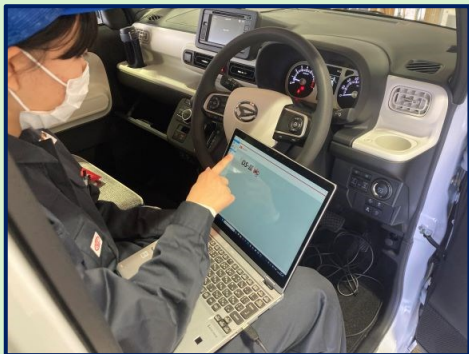
【事例 5/座学】車検制度の重要性や自動車整備士の社会的使命についての説明

実施のねらい	車検制度の意義を知ってもらうことにより自動車整備士が担う社会的使命を理解してもらう。
実施内容	・ 車検制度の意義（車検は法的義務であって、車両の安全性を確保するために必須であること）や自動車整備士が安心・安全な車社会のために必要不可欠な存在であることなどを説明した。 ・ また、車検時の具体的な作業内容（例えば、排出ガスに含まれる成分の検査方法、ブレーキパッドが摩耗しているかどうかを確認する方法など）も説明した。 
実施時の工夫点	・ 車検は、自動車が道路運送車両の保安基準を満たしているかどうかを確認し、事故を未然に防ぐことを目的としていることを分かりやすく説明するよう心掛けた。

【事例 6/実習】洗車体験

実施のねらい	実体験を通じて日常でも活かせる洗車の知識や技術を知ってもらうことで、自動車整備士が身近な存在であるとの印象を持ってもらう。
実施内容	・ 手洗い洗車を体験してもらった。 ✓ まずは洗車の基本事項のレクチャー（例えば、事前に表面のほこりや汚れを落とすことなど） ✓ タイヤ・ホイールの洗浄の体験（専用のホイールクリーナー等を使用して実施した） ✓ 拭き上げ、ワックスがけ作業の体験 ✓ 室内清掃、車両の最終チェックの体験  
実施時の工夫点	・ 参加生徒の安全を確保するために、通常の 2 倍のスペースを確保して実習を行った。 ・ 体験時には、実務上の注意点も説明した。 ✓ 例えば、ブレーキダストや運行時に部品から出る汚れなどもあること ・ 長期間にわたって自動車を美しく保つためには、高圧洗車機の使用が有効なことなども説明した。

【事例 7 / 実習】 法定 12 か月点検作業の体験	
実施のねらい	法律で自動車ユーザーの義務と規定されている定期点検の重要性を、実際の作業を通じて知ってもらう。
実施内容	・車両の外装・内装（ライト類、ワイパー、ホーンなど）の点検作業の体験 ・エンジンルームの点検作業（オイル漏れ、冷却水、バッテリー、ベルトなどの確認）の体験 ・下回りの点検作業（ブレーキ、サスペンション、排気系統などの確認）の体験 ・タイヤ点検作業（摩耗、空気圧、異物混入などの確認）の体験 ・点検整備記録簿の記入方法や依頼者に対する点検結果の説明方法についての説明  
実施時の工夫点	・参加生徒の安全を確保するために、生徒 1 名につき自動車整備士 1 名が個別に指導した。 ・実際に点検した結果を基に、どのような修理や交換作業が必要となるかを参加生徒に考えてもらった。

【事例 8 / 実習】 スキャンツールを用いた故障診断の体験	
実施のねらい	現代の自動車はコンピュータで制御されていることを知ってもらう。
実施内容	・参加生徒に、実際にスキャンツールを自動車の ECU に接続してもらい、当該自動車に不具合が起きているかどうかを診断することを体験してもらった。 ・上記体験は、年式の違う複数の自動車で実施した。 ・上記故障診断後に、アクティブテストのうち電動ファンの強制駆動なども体験してもらった。  
実施時の工夫点	・故障診断について、分かりやすい言葉で説明することを心掛けた（例えば、「トラブルシューティング」を、「問題の原因を特定し、解決策を見つけるプロセス」と言い換えるなどした。）。

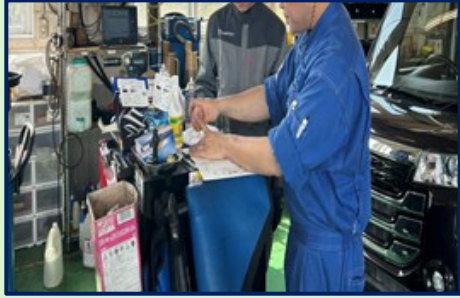
【事例 9 / 実習】 自動車の配線に関する説明と実験

実施のねらい	自動車の配線について説明し、その概要を理解してもらった上で、実際の自動車の配線を用いた実習をしてもらうことにより、自動車の配線に対する理解を深めてもらう。
実施内容	・まずは自動車の配線図を基に、電源から各機能へどのように電気が流れるのかを解説した。 ・その後、実際の自動車の配線を用いて、電圧の変化により、スパークプラグから火花が飛ぶメカニズムを観察する実験を行ってもらった。 ✓ エンジンを始動すると、点火コイルが高電圧の電気を生成し、この電気がスパークプラグの中心電極に送られ、絶縁体を通じ接地電極に向かって電流が流れることを観察してもらった。 ✓ この際、中心電極と接地電極の間に火花（スパーク）が発生する仕組みについて説明した。
実施時の工夫点	・実験の実施にあたっては安全を確保することが何よりも重要であるところ、特に静電気の発生を防止するためのアースを取ることをよく説明した。

【事例 10 / 実習】 部品の脱着作業の体験

実施のねらい	大きい部品を取り外し、組み付ける作業の体験を通じて、自動車整備作業の楽しさを知ってもらう。
実施内容	・バンパー、ボンネット、ヘッドライト等の脱着作業を体験してもらった。 ・具体的な作業手順は次のとおり。 ✓ バンパーを固定しているネジやクリップの位置を確認する。 ✓ バンパーがクリップで固定されている場合、プライヤーや専用のクリップリムーバーを使用してクリップを外す。 ✓ ライト、ウィンカーの配線を確認し、配線を外す。 ✓ バンパーを前方へずらして外す（指導者がバンパーを持ち補助した。）。 ✓ 装着は脱着の逆の手順で行ったところ、具体的には、仮合わせし、ボルトの位置を確認しながら工具で締め付けた。 ・使用した工具は次のとおり。 ✓ ソケットレンチセット ✓ ドライバー ✓ プライヤー ✓ トルクレンチ など
実施時の工夫点	・安全性を確保するため、スタッフが十分にサポートを行いつつ体験を実施した。 ・バンパーは比較的軽いが、大きい部品であるため、他の部品にぶつけないよう留意した。

【事例 11/実習】 診断機を利用したキーレスリモコンの登録作業等の体験

実施のねらい	普段見ることのないキーレスリモコンの登録作業等の体験を通じ、自動車整備士の仕事の楽しさを知ってもらう。
実施内容	・ 診断機を利用したキーレスリモコンの追加登録作業を体験してもらった。 ・ その際、キーレスリモコンの機能についての説明も行った。 ✓ 例えば、ロック／アンロック、トランクの開閉、エンジン始動、セキュリティ機能等について説明した。 
実施時の工夫点	・ キーレスリモコンの登録作業を知っている参加生徒が少なかったため、参加生徒の新しい発見につながるよう、分かりやすい説明を心掛けた。

【事例 12/実習】 二輪車の整備作業体験

実施のねらい	二輪車特有の整備作業を体験してもらい、二輪車の構造に対する理解を深めてもらう。
実施内容	・ 工具の使い方を説明した上で、二輪車特有の整備作業に着手してもらい、都度、分からない点を質問してもらうかたちで進めた。 ✓ まず、基本工具であるスパナ、ドライバー、トルクレンチなどの使い方を説明した。 ✓ 次に、二輪車特有の工具であるチェーン調整工具の使い方も説明した。 ✓ 上記説明後 ➢ 装備品の締付け ➢ タイヤの空気圧の確認 ➢ バッテリーの点検 - などの基本作業を体験してもらった。 
実施時の工夫点	・ 二輪車特有の構造、具体的には、エンジン、フレーム、ホイール、サスペンション、ブレーキなどの構成要素が少なく、シンプルな設計で整備がしやすいことを分かってもらえるように説明内容や体験してもらう作業内容を工夫した。

【事例 13/見学】運輸支局等の検査コースの見学

実施のねらい	普段見ることのない検査コースにおける検査（車検）の実施状況を見学してもらうことにより、自動車整備士の仕事の幅広さを知ってもらうとともに、検査の重要性も知ってもらう。
実施内容	・運輸支局等の検査コースに赴き、検査を受ける様子を見学してもらった。 ・見学の前後に、検査コースにおける検査の流れや保安基準などについて説明もした。 ・見学の際には、どのようにして検査の際に保安基準適合性を確認するのかをよく見てもらった。 
実施時の工夫点	・運輸支局等に移動する際には、参加生徒と積極的に会話し、緊張感を和らげるよう努めた。 ・見学時には、街中を走る自動車は全て、検査（車検）において保安基準に適合すること（安全性が確保されていること）が確認されたものであって、保安基準適合性を担保するためには、自動車整備士が適切に整備する必要がある、安心・安全な車社会の実現のために自動車整備士は必要不可欠な存在であることを知ってもらうよう、分かりやすい説明を心掛けた。

【事例 14/見学】ショールームやフロント業務の見学

実施のねらい	自動車整備業界における接客対応の実態やその重要性を知ってもらう。
実施内容	・ショールームの役割やレイアウトを説明した。 ✓ 例えば、子供を連れて来店する顧客も多いことから、大人はもちろん、子供も快適に過ごすことのできる環境整備を行っていることなどを説明した。 ・フロント業務の一連の流れを見学してもらった。 ✓ 例えば、受付、予約管理、顧客対応など実際の接客の様子をよく観察してもらった。 
実施時の工夫点	・自動車整備事業者は、自動車整備士はもちろん、フロントやショールームのスタッフなどを含めたチームで業務に従事していることを知ってもらえるよう心掛けた（例えば、事前に、ある1週間のスタッフローテーションと業務内容についてまとめ、これを基に、チームで仕事をしていることを説明するなどした。）。

【事例 15/その他】 部品名称クイズの実施	
実施のねらい	クイズ形式で楽しみながら自動車に関する知識を深めてもらう。
実施内容	・エンジンの現物を準備して、各部品の名称などを質問した。 ・質問する際には、ヒントとしてその部位の役割や機能を伝えた。具体的な質問例は次のとおり。 (例1) 車両の前方に取り付けられ、エンジンの冷却を助け、空気を取り入れる部品は何でしょう？ (例2) オルタネーターはどのような機能を持つ部品でしょう？ (例3) エンジンに付いている「でんでんむし」のような部品の名前とその機能は何でしょう？ 
実施時の工夫点	・参加生徒の人数が多い場合、チーム対抗のポイント制にするなど工夫した。 ・難しい部品ばかりではなく、参加者が分かるような部品（機能）についても出題した。 ・参加生徒が正解した場合、担当スタッフ全員で賛辞を贈り、モチベーションを高めるようにした。

【事例 16/その他】 自動運転機能の体験	
実施のねらい	自動運転機能の一端を体感し、その機能を維持するために必要な整備の重要性等を知ってもらう。
実施内容	・自動運転レベル2の自動車の後部座席等に乗ってもらい、駐車などを体験してもらった。 ・また、当該自動車には、次のような機能が備わっていることやその機能を維持するために必要な整備作業の内容について説明した。 ✓ アダプティブクルーズコントロール ……前方の車両との距離を保ちながら、自動で速度を調整する機能 ✓ レーンキーピングアシスト ……車両が車線を逸脱しないように自動でハンドルを調整する機能 ・加えて、自動運転車の開発状況や今後の展望についても説明した。
実施時の工夫点	・レベル2の自動車については、運転者が常に運転に注意を払い、必要に応じて介入する必要があることなど、安全性の確保に注意が必要であることも説明した。 ・乗車体験時の安全性を確保するために、参加生徒は後部座席に着席してもらうなど配慮した。

【事例 17/その他】朝礼におけるオリエンテーション等の実施

実施のねらい	・参加者の緊張を和らげ、円滑なコミュニケーションをとれるようにする。 ・仕事体験学習の目標を明確にし、意欲的に取り組んでもらえるようにする。 ・安心・安全な環境で整備作業を体験してもらえよう、事前にルールを共有する。
実施内容	・生徒には、始業時の朝礼から参加してもらい、次の見学、説明等を行った。 ✓ 各スタッフの点呼、担当業務の進捗報告などを見学してもらった。 ✓ スタッフの自己紹介を行うとともに、参加生徒からも簡単に自己紹介をしてもらった。 ➢ スタッフの自己紹介→氏名、担当業務、職歴、高校時代に頑張ったことなど ➢ 参加生徒の自己紹介→氏名、所属高校、学年、仕事体験学習に参加したきっかけなど ✓ 参加生徒に対して、安全を確保するためのルールやマナーについて簡単な説明を行った。 
実施時の工夫点	・参加生徒の緊張感を少しでも和らげるよう、柔らかな口調で分かりやすく説明することに努めた。 ・整備の現場は安全第一であることから、仕事体験学習を開始する前に、安全を確保するために必要な服装や行動の注意点をきちんと伝えた。

【事例 18/その他】参加証明書の授与

実施のねらい	当日の達成感をより強く感じてもらう、将来、自動車整備業界を目指すモチベーションを高めてもらう。
実施内容	・参加日の最後に、スタッフが一堂に会した中で、参加証明書を授与し、大きな拍手を送った。 ✓ 参加証明書のサンプルは、28 ページのとおり。
実施時の工夫点	・談笑を挟みながら和やかな雰囲気をつくることやスタッフが全員で大きな拍手を送ることを徹底した。

5. 参考資料集

【参考資料①】案内チラシのサンプル



自動車整備の仕事を体験しよう！

仕事体験学習 申込のご案内

高校1・2年生

参加者特典（先着50名予定）

特典①



工具セット
※VESSEL製
ウッディ ソケット
レンチセット（予定）

特典②



作業ツナギ
※上記はイメージです

特典③



セーフティシューズ
※上記はイメージです

その他 参加者はインターンシップ総合保険に加入します

実施内容

- 希望の自動車ディーラーや近隣の自動車整備工場に行き、自動車整備の仕事体験を行います
- 仕事体験を通して働く意義の発見や就業意欲の向上につなげます

実施日時

20××年 下記各日の10:00～16:00(予定)

8/1
月

8/2
火

8/3
水

8/4
木

8/5
金

8/6
土

8/7
日

8/8
月

※複数日程での参加も歓迎
(複数日程に参加した場合もプレゼント品の提供は1回のみとなります)
※受入先により多少の変更が出る可能性があります
※左記8日の中から好きな日程を選択、参加できます
※実施日の3週間前締め切り

受入れ事業所は後日、一般社団法人沖縄県自動車整備振興会若しくは各受入れ事業者から直接連絡いたします。皆さんがお住まい近くの事業所（自動車ディーラー、整備事業所等）へ参加いただきます
(※皆さんの体験希望事業所等があれば、エントリー時に希望をご記入ください)

申込から当日参加までの流れ

- ① チラシ内記載の二次元コードから申込ページへ移動します
- ② 申込ページ内の必要事項を全てに入力ください
- ③ 開催前のご案内をメール送信しますのでそちらの内容をご確認いただき、当日のご準備をお願いします
- ④ 当日、実施場所にお越しください

ここに
二次元コードを
入れる

●申込後、リマインドメールが入ります。 ●申込後、リマインドメールが入らない場合、エントリーできていない可能性がありますので、再度ご登録ください

【参考資料②】実施確認書のサンプル

仕事体験学習（インターンシップ） 実施確認書			
実施日		参加人数	
実施場所 店舗名			
実施場所 住 所			
集 合 場 所	集合場所名		
	集合場所住所		
集 合 時 間		実 施 時 間	~
担 当 者 名			
当日の持ち物			
その他の連絡事項			
会社名／団体名			
担当者名			
メールアドレス			
TEL①：会社／団体の連絡先		TEL②：当日の緊急連絡先	

仕事体験学習(インターンシップ)の受入れをご快諾
いただきまして、誠にありがとうございます。
下記ご一読いただき、当日のご実施をお願いします。

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
仕事体験学習の実施要領をお送りいたしますので、お目通しいただけますと幸いに存じます。
何卒、よろしくお願い申し上げます。

敬具

27

【参考資料④】 参加証明書のサンプル

仕事体験学習（インターンシップ） 参加証明書

下記の者が仕事体験学習に参加したことを証明いたします。

【参加者氏名】

【参加者在籍高校名】

【参加日時】 年 月 日（ ） ～

【参加場所】 ○○モータース ○○店

【仕事体験学習の概要】

- ・ 体験用自動車を使用した基礎的な整備体験
- ・ 自動車整備士の仕事概要の説明、見学

【受入事業者】

株式会社○○モータース

代表取締役社長○○ ○○

住所：○○県○○市○-○-○

TEL：○○○-○○○○-○○○